



# 佐高

スーパー グローバル ハイスクール

# SGH通信 2019

No. 43 (2020年3月6日発行)

佐高 SGH インスパイア ファイル

## 先輩 佐野高等学校 4期生 若田部 瑞菜 氏

先輩シリーズ第3弾、本校4期生の若田部瑞菜さんを紹介합니다。現在東京学芸大学教育学部教育支援課程多文化共生教育コースの3年生です。留学の様子を報告してくれることになりました。

### 海外経験で得た自分軸～フロアクティブに行動すること～

#### 1. 初めに

私は、大学入学後に計**3回**の**海外研修**に参加しました。ドイツに2度、**オーストラリア**に1度渡航をしました。海外へ行くと思ったきっかけは、高校在学中のカナダでの語学研修への参加やドイツ人留学生との出会いです。大学進学後は英語をはじめとする語学力を身に付け、異なる文化背景を持った方々とのコミュニケーションを通じて自分の視野を広げたいと感じていました。特に佐野高校在学中のドイツ人留学生の方との出会いはドイツを留学先を選ぶ決め手となりました。



ドイツ滞在時には再会も果たし、嬉しいことに今でも交流は続いています。ドイツ語を**第2外国語**として選んだのもその友人の影響であり、大学では英語だけでなくドイツ語学習にも励んでいます。

#### 2. 海外研修の概要

##### ①ドイツ・ハンブルク大学ドイツ語サマースクール(2018年8月1日～31日・1か月間)

参加者は日本、台湾、韓国のドイツ語を学んでいる学生で、平日はネイティブのドイツ語講師による授業と日本人講師やハンブルク大学の学生チューターによる補講、休日は観光などをして過ごしました。まさに平日は**ドイツ語漬け**で、特に学生チューターによる補講では、ドイツ語で分からないことを聞いたり、ドイツ語で会話をしたりとドイツ語を使う絶好の機会であったため、**生きたドイツ語**が身に付きました。また、台湾や韓国からの留学生と寮で共同生活を送ったため、異文化交流ができたのも印象的でした。1か月間を通して語学習得のためにはとにかく間違いを気にせずに話すことが最も重要だと実感しました。

##### ②オーストラリア・メルボルン短期留学プログラム(2019年3月21日～30日・10日間)

オーストラリアは移民によってつくられた**移民国家**であり、特にメルボルンは「**多文化共生**」発祥の地と言われています。「多文化共生」という言葉は日本ではあまり馴染みのない言葉かもしれませんが、「多文化共生」とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの**文化の違い**を認め合い、**対等な関係**を築こうとしながら、地

域社会の構成員としてともに生きていくこと（総務省：多文化共生の推進に関する報告書より）」です。私は、大学で「多文化共生教育」を学んでいます。具体的には日本において外国にルーツを持つ子どもに対する言語面や学校生活面などでの教育支援についてです。この留学では、**移民やマイハティに関する教育の課題**や可能性を考えることを目的とし、オーストラリアの多文化共生学の教授のお話を伺う機会や、現地大学の学生とアートを通じて環境問題を考えたり、現地の高校を訪問し日本文化についてのプレゼン、高校生との交流をしたりしました。



(先住民アボリジニのアート)

### ③ERASMUS+ドイツ・ドレスデン工科大学での研修(2019年10月24日~12月24日・2か月間)

私は、ZLSB というドレスデン工科大学にある教員養成に関して専門に扱っているセンターで研修をさせていただきました。これはERASMUS+というEUの留学プログラムを通じた調査・研究滞在でした。使用言語は英語で、現地の小学校や**ギムナジウム**という中高一貫校の見学やZLSBの主催する国際学会や会議の見学・参加、ZLSBの職員の方や教員養成課程に所属する学生へのインタビューを行い、ドイツの教育や教員養成に関して広く学びました。ドイツの教育は国が主導するものではないため、各州が独自の教育制度をとっています。今回はザクセン州の教育制度を中心に学びました。またドイツは**移民受け入れ国家**であり各学校における移民の子どもたちの割合も高く、実際にそのような学校を訪問できたことは私にとって貴重な経験でした。

ZLSBの主催する**国際会議**では、**世界18カ国**からの参加者によって海外での教育実習の実現に向けて、ワークショップを通じて環境教育や市民教育、異文化間教育など様々なアプローチから議論がなされました。この会議の中で、現職の先生や教育学の教授の方のお話を伺える機会もあり、海外の教員養成における先進的な取り組みに関して知ることができました。そして、様々な国の方とコミュニケーションをとることができ、自信となりました。



### 3. 最後に

3度の海外経験を通して、私が最も重要だと考えるのは、プロアクティブ“**proactive**”に**(率先して)**行動するということです。自分の行動や選択1つ1つに自分の将来を広げる可能性があります。自分の意見をしっかり持ち、勇気を出して一歩踏み出してみると、そこには**想像もしなかった世界**が広がっています。私も自分のやりたいことを思い切って伝えてみたからこそ得られた経験がたくさんありました。これからも常に自分から積極的に動くということを自分軸として大切にし、将来は社会の役に立てるよう日々努力していきたいです。

最後になりますが、高校時代の経験や人との出会いは必ず皆さんが今後人生を歩んでいく上で貴重な財産になります。ぜひ今頑張っていること、興味のあることを大切にし、将来の自分の武器となるよう極めてみてください。そして日本と海外は思っているよりも近く、いたるところに**日本を飛び出してみるチャンス**はあると思います。海外経験は決してハードルの高いことではありません。皆さんの中から一人でも多くの方が海外に飛び立つことを願っています。